・追加・変更箇所は赤文字で表記。改訂日付は最新のみを記載。
・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/09/14
改訂 2024/10/08

【明大マンドリン倶楽部コンサートに向けて】 28 回定演練習時の指摘＋直前練習

楽曲全般について

〇とにかく男らしく、つまり、発声は縦に縦に。あごの下から手で頬をぎゅっと縦にして歌うと男らしくなる。
歌いなれている曲だと横になりがち、特に高音やロングトーンでは注意。

〇テンポが重くならない（遅れない）ように。空間になっているみんなの声の響きを聴いてから歌いだすと遅れる。指揮のタクトの動きに合わせてインテンポで。

〇ブレスをする前の音をいかに大切に出せるか、も一つのポイント。短く切りすぎない。

Sailing, Sailing

〇勢いと方向性：ラム酒と干し肉を食らっているアングロサクソンが木の船で帆を張って「さあ、いくぞ！！」と沸き立っていることをイメージして勇ましく。

〇カタカナ英語は卒業、特に。「over the bounding main」、「Jack comes」の「s」の子音。

〇9 小節～の 4 声で一段大きくなるように。
1～4 小節の出だしはバシッと、5～8 小節は次に備え、9 小節～4 声全開で響かせる。

〇歌いなれているので譜面的には OK だが、その分、勢いづいてしまうと糸の切れた凧のようになってしまう。あくまで、縦に縦に歌うことを崩さないように。オペラ風の歌唱が間違いなくかっこいい。
例えば、27-28 小節 over the bounding main の 28 小節の main のロングトーン。
綺麗に、でも消極的にはならない。（T1 頑張りすぎの傾向あり）。

〇フェルマータは直前までインテンポの意識で、指揮に合わす。今はかなり手前からゆっくりになっている。

I’ve Got Six Pence

〇行進曲（マーチ：テンポ、リズムの切れ）を意識して。軽快に

〇オペラ風がかっこいいが、上品にこじんまりまとまると、それはそれで迫力に欠けるが、縦に縦に歌うことを崩さないように。オペラ風の歌唱が間違いなくかっこいい。

〇T2 16-17,40-41 小節のメロディはリードボーカルとしてみんなをリードするつもりで大きく。

〇T2B1B2　28 小節 3 拍目の四分音符は長さをキープして、life（ラァイフ）と発音すること（T1が動いていることを効果的に聞かせるため）。

全パート　life　は　ノーブレスで乗り切れるように、前後のブレス位置を計算しておく。

〇32 小節～　急にリズムが重くなる（8 分音符→4 分音符）。裏打ちが聞こえるリズム感を出す。

〇後半疲れないように踏ん張って、最後まで音量をキープして小さくならないように。

海メドレー

【おやじの海】

〇指揮の入りは、ワン･ツー･（ン）。

〇立ち上がりからエッジを効かせた歌い方で。

〇9 小節～　T1T2B2　Uhー　がフェードアウトしないよう、最後までしっかり出し切る。

〇8 分休符の裏の入りが遅く、どんどんテンポが遅れる。指揮を追い越してはダメだが食い気味に。

【港町 13 番地】

〇テンポアップのメリハリつけて、結構テンポアップしてノリ良く。

【港のヨーコ】

〇最初のビートの刻みは、港町～の音量を引き継いで大きくしっかり。セリフが入る小節から、少しだけ音量を落とす（大盛りを中盛りくらいの違い）。要は小さくしすぎては聞こえない。

〇最後まで飽きずに、むしろラストのビートは盛大に。

そうらん節

〇テンポ、少し早めに軽快に。出だしから遅くなるので、歌いだす前の指揮のテンポをキープ。

でも、走りすぎもまずいので、指揮をよく見て合わせるように。

〇ソーラン　→　S ソゥラン　子音を強調。pp の箇所も勢いは失わないように。

〇日本語歌唱だけど、ベーターと平べったい声にならないように、

〇低音はズンッズンッと迫力で響かせるとかっこいい。

〇高音も、ピャァ～と横でなく、縦にチョイャァァ～　とかっこよく（オペラ風だが、気取って、ではない）。

【5 小節～】

〇譜面上は pp や p や mp の表記でも、mf とか f の意識で。元気よくしないと消えてしまう。

T1T2　mf（でもデカすぎるのは都合が悪い）。　B2 は低いから f でしっかり。

【27～28 小節】

〇T1B1　27 小節 4 拍目の最初の 16 分音符はタイでなくてよい。T2B2 がショと言っているので 16 分音符 4 つ「オオオオ」としてよい。そのほうがリズムがとりやすいはず。

〇T1　28 小節の 3 拍目の裏からの「ヤアア」は、T1 主体で、ソロのつもりでインテンポでそのまま突っ込んで。指揮は T1 のこれをキューにしている。

Rolling Home

〇曲想は、「さあ、家に帰るぞ～～。」という前向きな思いを込める。曲の入りは mp だが、元気よく。囚人船で帰国の途につかないで。

〇この曲も縦に歌うことが重要。

【冒頭（Aメロ？）】

〇Rolling Home の繰り返しは、1 回目＜2 回目＜3 回目と熱量を上げて盛り上げていくことを意識。全部が同じではだめ。（2 回目はメロディの音程が上がるので自然と盛り上がってくるので、特に 3 回目の盛り上げを特に意識しないと、逆に凹んで聞こえてしまう）

〇T2 6 小節目～のメロディは、パート内で音程をきちんと合わせることを意識。それにより、メンバの個性が相乗効果を生む。

〇B1　6 小節目の 3 拍目の G の音量のバランスに注意（強すぎる）。T2 のメロディ（♮E）より高い音なので強く響いてメロディが聞こえなくなる。

〇T1B1B2　T2 のメロディがきちんと聞こえてくるように各パートで（音量を）調整する。ただし、低音の B2 はしっかりと響かす（そうしないと聞こえない）

〇途中（Then we'll sing ～）は、すごくゆっくり、ひそひそ感で。でもボソボソにはならない。

ここは、教会で賛美歌を歌っているように、キレイにキラキラした感じ。これは小さくするのとは違う。

〇B1　Coda の先 21 小節の♭A が転調のキーとなる音。7 小節の A から F→♭A となる流れ。

〇最後まで音量をキープする。小さくならないように。